

<蛸地蔵商店街：岸和田市>

# 蛸をこよなく愛する商店街！

～ たこ商店街に向かってまっしぐら！～

## 取組みの効果

- ◆ 商店街名物「たこ天」の開発
- ◆ キャラクターにストーリー性を持たすことによる認知度アップ
- ◆ イベントにおける来街者の増加

## 取組みの内容

- ◆ 蛸地蔵マップの作成、原画展の開催
- ◆ 商店街名物の開発、大試食会の開催
- ◆ キャラクターを使ったグッズの作成
- ◆ ブログ・ツイッター等による積極的な情報発信



蛸地蔵商店街のキャラクター「たこじろう」

## 取組みの背景

蛸地蔵商店街は、南海本線蛸地蔵駅から徒歩すぐのところであり、商店街の周辺は半径約 700m内に約 5000 世帯が居住する古くからの住宅地で、高齢化が進んでいる。

商店街の経営者も周辺の住宅地と同様、高齢化が進むとともに後継者不足により店舗経営も困難となり、廃業する店舗も増えつつある。

## 〈商店街データ〉

- 所在地 岸和田市南町 14-22
- 立地 南海本線蛸地蔵駅から徒歩すぐ
- 店舗数 37店
- 問合せ 蛸地蔵商店街  
会長 奥 保久  
Tel 072-422-2411

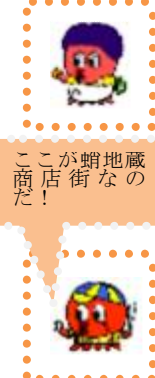
<http://www2.sensyu.ne.jp/sakuraya/takojizou.htm>

また、商店街の近くで営業していた企業が合理化により支店等を閉鎖・縮小したため、来街者が減少していることも衰退の要因の一つとなっている。

もともと、他地域からの人口流入が少なく、新たな購買者を期待し難いため、商いに新たな商品の流通や活性化が鈍い。

かつては、日本一のお地蔵さん（通称：たこじろうさん）で有名な天性寺の参道商店街として賑わいをみせていたが、近年は当時の賑わいは消え失せた状況にある。

一方、商店街周辺には岸和田城をはじめとする歴史的建物や紀州街道など城下町の風情も色濃く残っており、さらに、だんじり祭を目当てにした観光客も増えている。



## 取組みのきっかけ

これまで商店街では、商店街のキャラクターの制作や飲酒運転撲滅運動、中学生によるチャレンジショップなど様々な事業やイベントを実施してきた。そのそれぞれは成功を収めてきたが、個店や商店街の活性化に結びつくような十分な効果が得られていないように思われた。商店街組合員だけでは同じようなことしか考えることができず、専門家による新しい発想を取り入れた事業を行いたいと思っていたときに、大阪オンリーワン商店街創出事業の募集が行われているのを知ったことがきっかけとなった。

## 活性化の要因

- ◆ 商店街組合員のやる気と活性化を支援する外部スタッフの参画
- ◆ 蛸地蔵マップを作成することによる、地域の回遊性や知名度の向上
- ◆ 商店街のキャラクターグッズ（携帯ストラップ、エコバッグ等）の販売や名物（たこ天等）開発による商圏外への情報発信
- ◆ 大阪産（おおさかもん）との連携による外部機関を活用した情報発信
- ◆ ブログ・ツイッターを活用した積極的かつタイムリーな情報発信



## 事業の仕組み

蛸地蔵マップの作成にあたっては、商店街組合員をはじめ、商店街の活性化を支援する外部のボランティアスタッフ約20名の協力を得て、マップに掲載するネタ集めのための街歩きを実施。ガイドマップに掲載していない、地元住民しか知らない情報を掲載することで、商圏外の広いエリアからの観光客の呼び込みを狙った。

マップの完成披露として、岸城神社内でマップのイラスト原画展を、マップのお披露目だけでなく、商店街と地域住民の連携を深めることも狙いとして開催した。

商店街名物の開発にあたっては、蛸地蔵というユニークな地名を活かし、「蛸」をキーワードとした取組みを進めることとした。各種グッズや煎餅など様々なアイデアの中から、地元大阪産（もん）の泉だこを使用した創作たこ料理を開発することとなった。

マップ作成同様、商店街の組合員だけでなく、地元在住の料理研究家をはじめとした地域に縁のある様々な人達の協力を得て、試作品4品が完成。その中から商品化する商品を決定するための方法として、『創作たこ料理の大試食会』と題したイベントを商店街内で開催。地域住民の皆さんに試作品4品を食べ比べてアンケート投票していただき、第一位となった商品を商品化することとした。

第一位となった「たこ天」は、その後も改良を重ね、地元イベントでのテスト販売を経て、23年4月から商店街内の2店舗で本格的に販売を開始した。

大阪府から大阪産（おおさかもん）の認

定が得られたことで、大阪産（おおさかもん）としての **PR** も可能となり、今後より一層、認知度の向上が期待できる。

ブログ、ツイッターもオンリーワン事業の採択をきっかけに事業に参画してくれている外部スタッフが開設し、イベントをはじめとする様々な情報を積極的に発信している。

さらに、蛸ゆえに、オクトパス⇒置くとパス（置くと合格）ということで、受験生応援グッズ「たこすけ」も販売開始。一つ一つ手作りで、毎月第3金曜日に開催している「手作り市」でのみ販売しており、合格祈願の御守としてひっぱりだこになっている。



岸城神社内での蛸地蔵  
イラストマップ原画展



受験生応援グッズ  
「たこすけ」(左)

## 取組み上の工夫や苦労

蛸地蔵マップでは、商店街の各店舗を紹介するため、各店ごとの「たこじろう」を作成。

例えば、魚屋であれば魚を持った「たこじろう」、医院であれば白衣を着た「たこじろう」など、各個店のキャラクターへと派生させることで、商店街全体で取り組んでいくという統一した意識の醸成を図った。

また、商店街キャラクターに家族を作るな

どストーリー性を持たせることで、来街者の興味を惹きつけ、キャラクターを広く活用できるように工夫した。

地名（蛸地蔵）と地元名産の泉だこを活かして開発した商店街名物「たこ天」は、大阪産（おおさかもん）の認定を受けたことで、PRにおける相乗効果を狙った。



たこ天と泉州水ナスのギフトセット(下)

たこ天と地酒のギフトセット(上)

## めざす商店街像（今後の展望）

商店街名物「たこ天」を開発した取組みは、せっかく商店街に来ていただいてもお土産として買っていただけるものがない、商店街の魅力アップのためにも何か名物がほしいとの思いから商店街のオリジナル商品として開発を目指したものである。

今回、商品化した「たこ天」は、商店街だけで作り上げた商店街発！のオリジナル商品であり、今後はしそ味など、味のバリエーションを増やすことも検討している。

また、一部店舗で開始している「たこ天」と店舗商品とのセット販売についても他店舗に拡大していくことで、商品開発の効果が商店街全体に波及し、商店街組合員相互のコミュニケーションなど、意思疎通が円滑に図られることにより、商店街が一体となって活性化に向けた取組みを推進していけるようになりたい。





## こぼれ話

蛸地蔵という地名は非常にユニークであるといわれるが、この地名の由来は、戦国時代の天正12年（1584年）、岸和田城が雑賀・根来衆に攻められ、落城寸前に追い込まれた時（岸和田合戦）、大蛸に乗った一人の法師と数千の蛸が現れ、凄まじい勢いで敵兵をなぎ倒し、城の危機を救ったとされるこの地の伝承にちなんだものである。

岸和田合戦の数日後、城の堀から矢傷や弾傷を無数に負った地蔵が発見され、城内に大切に収められ、文禄年間（1592～96）以降は、天性寺内にある日本一大きな地蔵堂に移され、今に至っている。

ご本尊の蛸地蔵は秘仏とされていて普段は公開されていない。

本堂は現在、改修工事中のため、中に入ることにはできないが、毎年地蔵盆（8月23日、24日）には一般公開されており、住職による絵巻物の物語りなどが催されるとのことである。

また、蛸の姿が内臓の“腸”に似ていることからいつしか脱腸や諸病平癒にご利益がある蛸地蔵として知られるようになり、寺の境内には一切蛸を食べずに願をかける、蛸絵馬が名物となっている。この絵馬はすべて住職が一枚一枚手書きで作っているため、良く見ると微妙な違いがあることが分かり面白い。

## 取組みを通じて

オンリーワン事業を通じて感じたことはいくつかあるが、まず、商店街のみなさんの活性化に向けて前向きに取り組む姿勢と行動力の早さには驚かされるばかりであった。

事業の検討会議で出た案は検討若しくは

とりあえずやってみようという意識のもと、検討会議の翌日から即座に実行に移す行動力には頭が下がる思いであった。

これは後日、教えてもらった話であるが、検討会議で出た案については、やる前から絶対に出来ないと言わず、とりあえずやってみようということ、予め役員全員で意思統一していたということであった。

実際、このように思っただけではなかなかできるものではない。実際に検討した案で全く出来なかった事業はなかったのではないと思われるほどの実行力であった。

また、本文でも少し触れているが、事業を検討するたび、新たな人がサポーターとして参画してくれるなど、人との繋がりがどんどん広がっていき、事業の推進体制が強化されていったことも成功した要因の一つである。

その点について会長に尋ねると、前会長時代までは外部の人たちとあまり交流がなかったが、今は積極的に交流を図るようにしていることが、このような良い結果に結びついているのではないかとのことであった。

岸和田市民の人と人とのつながりを大事にする心が、商店街を支える力となり、さらにサポーターとして応援してくれることにつながったことは確かである。しかし、一番の要因は、会長が日ごろから付き合いや助け合いを大切に、外部の人たちと積極的に接してきた結果であり、今回の事業への応援は、サポーターたちの日ごろのお世話への感謝の表れだと思われる。

今後も商店街を支えるみなさんが同じ志を持ち、とりあえずやってみようの精神を忘れずに取り組んでほしいと思う。